



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 7 附1

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 7 附1. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 7(附1)

ISSUE DATE:

1953-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186877>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 7. 附1

1953.3月(3月31日)

1953.4月11日 委員会議題(案)

1. 議長送出、オブザーバーの承認

番所山植物園その他の関係者とオブザーバーとして委員会に出席を許すかどうか。

2. 議事決定

こいに書いた議題(案)は、水族館の運営主番として、これに付は論議していただくには困るという最小限を示している。

3. 1952年度(1952.7月1日—1953.3月31日)事業報告・経理報告

がり版印刷物と以て説明にかゝる。記載事項につき質問があれば、席上で詳しく説明する。

4. 同上に対する監事の監察報告

5. 1953年度(1953.4月1日—1954.3月31日)予算案提出

1953年度の事業報告につき論議がつくされる。先に予算が決定されるわけがないが、こいには事業計画と論ずる基礎とする。あ、一応の收支を考えておきます。

6. 番所山植物園との関係

番所山植物園に於ては、明光バスその他と提携して、全地区内に約60坪の建築を設け、その30坪を温室とし、これと附近一帯の植物販売とを対象として独自の収入をあげる事を計画しています。これは4月に施工、5月から開設の予定。

イ) 連帯切符の可否

番所山の設備内容の検討、連帯と云う事の根本的検討、入場料が高くなる事の問題、入場税の問題。

ロ) 連絡道路の問題

水族館—番所山道路、番所山のふへの道路を建設させること。

ハ) 境界線その他の問題

境界線に柵を設けるか、売店、権識等が設置、已設のものに対する処置(宿直室拡張、ビーチハウス)

ニ) 博物館前広場の使用

博物館前の広場と番所山に設けられる建物の前庭とかねて開放に欲しいとの申入れがある。これに対して……水族館、博物館への裏からの無料入場者を防ぐ方法があるか、開放に対してどのような報償を要求するか、前庭としての維持にどのような条件をつけるか。

7. 入場税の問題

3月27日 西平寺地方事務所へ赴いて最終的に県の意志と次のように承つた。——意見はまちまちではあるが大勢は課税不穩妥にかたむいている。これより3月9日に事務所より税務課長へ来所して振興会、水族館の内容を徹底的に調査して帰った資料を同県の各方面に提出した陳情書が大いに役立つところと思われる。問題は番所山との関係で今の様に収入の何分の一がと渡す形式では免税はむづかしい。現状を強いて「京大の番所山と借り切って経営して年契約金何万円」と言うように解釋して免税の線に持つて行くように計画している。あと長くはないから、それまで従来と同程度の税を納めておいて貰いたい。しかし、番所山が切離されれば問題は極めて簡単になるから、切離されたいと通知を受ければこの免税をなるべく準備しておく。

8. 博物館、水族館の件

番所山との関係が切れると、今迄20月で番所山と見られた事を、入場料の値下げで補うか他の設備で補うかの必要がありはしないか。実験所として博物館を閉鎖してあるのは心苦しい事であるから、この際免税額(年間15~20万円)で番入を1人1人入れ、危険のない階下東側の1室(24坪)だけを陳列と整備して公開したい。

ア) 内容と従来のように広く博物館資料とするか。

ロ) 海洋科学に限定するか。

ハ) 郷土的なものとするか、広く世界的なものとするか。

ニ) 無料入館者は水族館入場者のみとするか、この設備に限り全面的に無料公開とするか。

ホ) どの程度の番入と置くか。

9. 番所山との契約金額に相当する事業の計画

年間約50万圓をいかに使用するべきかと云う事になるのですが、大都市の動物園等に或はその近郊に新設備の水槽室水族館が競って作られつつある現在、この水族館も大衆から見離されたいためには水槽の拡充改造などが是非必要であると言います。また周囲の美化も番所山と離れた以上こちらの年でやらねばなりません。

イ) 水族館の改造・拡張が国でやつて貰える見込があるか

ロ) こちらで計画する場合、大計画を一部分づつ実現にいくつか、小計画を一つづつ実現していくのか

ハ) 具体的計画 (大計画ならば5年位のオノ期計画費用立替)

ニ) 周囲の美化にはどれだけの費用を使用するか、その具体策 (舗装・方法など)

他に有効な用途 (例えば、研究方面に使用) があれば活発な意見を出して戴きます。

10. 1952年度経常費に相当する金額で行う事業

別紙で御覧に入れたように、7~3月の7ヶ月間に水族館・実験所のためにかりりの仕事が行われてきた。

イ) 実験所として本年度に希望する事項
研究援助費 (布施: — 奥野の金魚の研究)

ロ) 水族館として本年度に希望する事項

中水槽室の明採り

電話ボックス

団体入場者入口

便所

給排水管の掃除とこれを蓋付溝とする事

バット台の水槽化

温水槽

11. 水族館使用人の待遇

- イ) 給料は適正か (実験所の方と比べて定めている。昇給の問題)
- ロ) 退職資金積立の増額 (1年で半月分にする)
- ハ) 休日を1ヶ月4日とし、各人にその日を定める。(現在は1ヶ月3日、希望の日と書いてやっている)
- ニ) 政府共済組合に加入の道を聞いてやって貰いたい。
- ホ) 災害時積立金より発出金の件

12. 町当局・観光協会に対する希望

イ) 露店問題

水族館前より番所山に至る海岸よりの道路が出来たら、その傍に露店台をいくつか作って、ここに体裁のいい露店を集めて貰いたい。

ロ) 風雨時におけるバス乗入れの問題

ハ) バス停車時間の問題

ニ) 公衆便所の件 (便所のないバス待合所)

13. 実験所の門附近を拡張したいと云う明光バスよりの陳情

門の附近一帯が丸裸となり、暴風時に防護の役をなすものがないか、其の対策があるか。

14. その他の事項

当番として思いつかなかった点も多々あると存じます。この7ヶ月間の経営に対する批判もこの時に聞かせていただきたいと思います。

15. 1953年度の予算検討

案と骨子とし、それ以後の論議により決定された事項を加えて予算を決定(承認)する。

16. 次期 (1953年9月1日 - 1954年8月31日) 当番の決定